

# Beta-Tricalcium Phosphate as a Possible Adjuvant in $\gamma$ $\delta$ T Cell-Based Immune Therapy for Human Disorders

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2023-05-29<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 土屋, 裕美子<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.20780/00033454">https://doi.org/10.20780/00033454</a>                   |

様式 (6)

## 学 位 審 査

|   |           |       |        |
|---|-----------|-------|--------|
| 学 位 番 号   | 甲 第 780 号 | 氏 名   | 土屋 裕美子 |
| 審 査 委 員 会   | 主 査 教 授   | 坂井 修二 |        |
| 論文審査の要旨 (400 字以内)   |           |       |        |
| <p>近年、がんの治療法として免疫細胞療法が注目されている。現在まで、がん細胞を攻撃できる T 細胞を体外で増殖させ、担がん患者に投与する養子免疫療法が行なわれてきた。特に <math>\gamma\delta</math> T 細胞は、樹状細胞からの情報がなくても、がん細胞を認識して攻撃することが可能であり、がん細胞を排除する能力が高いため、免疫細胞療法に使用されてきた。しかし、末梢血中の <math>\gamma\delta</math> T 細胞の数は少ないため、生体外での効果的な培養を介して <math>\gamma\delta</math> T 細胞の数を増やすことが重要であると考えられている。本研究では、<math>\beta</math>-リン酸三カルシウム (<math>\beta</math>-TCP) による末梢血由来 <math>\gamma\delta</math> T 細胞への刺激効果と細胞増殖への影響を解析し、ほとんどの実験 (5/6 回) で、<math>\beta</math>-TCP を培養液に添加することにより、<math>\gamma\delta</math> T 細胞の数が増加することを確認した。</p> <p>以上本研究は、医療現場で広く使用されている <math>\beta</math>-TCP を用い、がんに対する <math>\gamma\delta</math> T 細胞治療をより効率的に行える可能性を提案できている。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p> |           |       |        |